

地区の計画とデザイン「With/Post COVID-19 のまちづくりを考える」 全体課題書

2021. 5. 14 版

1. 趣旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行とそれに伴う緊急事態宣言等は、社会経済システムと人々の生活に多大なる影響を及ぼしている。COVID-19 の感染拡大を防止するための様々な対策が行われる中、現在、世界的に WithCOVID-19・PostCOVID-19 の都市やまち、都市計画・まちづくりのあり方に関する意見交換が行われている。また、市街地環境の改善に向けた提案や取り組みも始まっている。

中長期的には、人間の生存に必要な水・食糧・住まい・医療といったコアサービスへの公平なアクセス、安全・安心で快適な住まいや公共空間の提供、緑・水への統合的アプローチ（人々の健康の向上、水循環の健全化・雨水マネジメント、気候変動の緩和・適応戦略をサポートするグレイ・グリーン・ブルーインフラを統合したアプローチ）、都市・国土の一体的なプランニング、精度の高いデータの整備などが必要だと言われている¹⁾。また、COVID-19 の影響により自動車交通量が減った道路に簡単に手を加え、健康維持や物理的距離（physical distance）確保のために需要が急に増えた歩行者・自転車のための空間を確保しようとする提案やアクションも増えている²⁾。

本演習課題は、こうした状況を踏まえ、世界的な動きのレビューや日本の都市のいくつかのタイプの市街地のケーススタディを行いながら、WithCOVID-19/PostCOVID-19 のまちづくりのあり方について小グループで討論してまとめる「提言型」演習課題である。従来のように計画・デザインの提案を図面や模型で表現するのではなく、ケーススタディ地区の状況を踏まえて、WithCOVID-19/PostCOVID-19 のまちづくりについて考えや意見をまとめ、提出・発表するものである。提言をサポートするためのコンセプトやデータも合わせて準備する。

対象地区のケーススタディは過年度の演習成果を活用し、討論と提言とりまとめ、それをサポートするコンセプトやデータの準備に重点を置く。一般的な提言でなく、ケーススタディ地区に即した具体的な物理的環境・社会的環境に関わる提言としてほしい。なお、優れた提言については、対外的に発表することも想定している。

2. ケーススタディ地区と担当教員・TA

ケーススタディ地区は、次の5つである。COVID-19に関連して、例えば、次のような課題や可能性が考えられる。より詳しい内容は各地区担当教員から追加説明する。

(1) 埼玉県日高市こま武蔵台（首都圏遠郊外住宅地）【樋野・高見・後藤・杉浦 TA】

- ・高齢化率 50%超のコミュニティで重要なサロンの閉鎖や配食サービスの休止（可能性）
- ・自動車の運転免許がなくバス等も避けたい高齢者の買い物
- ・高齢者福祉サービスの利用制限と健康維持
- ・在宅勤務の普及に伴う生活の変化、人口流入への期待、NPOによる子育て世代の呼び込み
- ・空き店舗に設置されたシェアキッチン、設置予定のコワーキング・スペースの活用

(2) 東京都墨田区等（大都市密集市街地）【廣井・薄井・森田 TA】

- ・アフターコロナにおける密集市街地の新しい評価軸
- ・3D都市モデル（プラトーデータなど）の応用
- ・安全・歴史・住環境など異なる課題を総合的に考慮した解決策の提案
- ・まちの特徴を生かした新しいアイデアの提案

(3) 東京都台東区 上野仲町通り・千代田区 秋葉原ジャンク通り（都心商業業務地（歓楽街））【中島・真鍋・永野・渡邊 TA】

- ・店舗の休業や大幅な営業縮小という現状
- ・商業・サービス業従事者や建物所有者の生活維持
- ・閉鎖的空間としてのソーシャルビル（街）の将来的な更新（面的再開発の可否、リノベーション）
- ・従来の飲食・歓楽文化への依存からの脱皮
- ・健康維持も兼ねた都心回遊行動の可能性、そのためのインフラ

(4) 長野県小布施町（地方都市の農住混在地域）【小泉・新・官 TA】

- ・これまでの都市と農村の暮らしの構図の変化
- ・自然豊かな場所での子育てとリモートワークなど地方のライフスタイルの再評価
- ・遊休農地、遊休施設など土地利用上の変化
- ・移住者（特に出身者やシニア層）の今後の動向
- ・生産が隣りにあり、人付き合いが多く助け合ってきた農村集落の暮らしの変化
- ・コロナ禍における「線引き」
- ・2019年の台風19号の被害を契機とした防災の気運の高まり

(5) 東京都西東京市（大都市の農住混在地域）【村山・太田 TA・山本 TA】

- ・都市農地の宅地化が進む大きな傾向
- ・コロナ禍に見直された都市農地・市民菜園など
- ・都市農地の保全と創造に対する大きな期待
- ・菜園付き小規模住宅地開発事例の登場
- ・幹線道路に囲まれた地区スケールの農住混在地域の将来像とその実現手段の必要性

3. 班分け

次の方針で初日に班分けを行う。

- ・各班4～5名とする。（→全体として7～8班となる。）
- ・1地区最大2班とする。
- ・各学生の希望を尊重して班分けを行う。

4. 最終成果物

- ・提言書（形式・分量は各課題担当者の指示による）
- ・以上をまとめた発表用スライド：20枚程度（15分の発表を想定）

5. スケジュール

5月25日（火）* 課題説明（担当教員からの地区概要説明含む）・班分け

*：DTP 演習中間ジュリー終了後1時間程度

6月23日（水） 全体確認・班分け確定

6月25日（金） 班ごとの作業（詳細は担当教員と班員で相談）

6月29日（火） |

6月30日（水） |

7月2日（金） ↓

7月6日（火） 中間ジュリー

7月7日（水） 班ごとの作業（詳細は担当教員と班員で相談）

7月9日（金） |

7月13日（火） ↓

7月14日（水） 最終ジュリー

1) How Will COVID-19 Affect Urban Planning?

<https://thecityfix.com/blog/will-covid-19-affect-urban-planning-rogier-van-den-berg/>

2) Let's Not Overthink This: Opening Streets is Easy, Says Urban Planner Mike Lydon

<https://usa.streetsblog.org/2020/04/16/lets-not-overthink-this-opening-streets-is-easy-says-urban-planner-mike-lydon/>